

幸常関 議会報告

第23号
2011.7

発行責任者
南魚沼市議会議員 関 常幸
南魚沼市浦佐2015番地
TEL 025-777-2245



がんばれ東日本 がんばろう南魚沼市！

私たちは、今年も普通にコシヒカリの田植えをし、特産の八色スイカも、夏の収穫に向けて畑いっぱい蔓を伸ばしている。

被災地の田んぼは、田んぼそのものの形が無い。ハウスもトラクターも全部奪い去られた。テレビの農業青年は「命があるだけ僕は良かったー」の映像に、神様はなんとむごいことをしたのだろうかと思った・・・。

大震災から4か月を迎えようと言うのに、福島原発の収束はいつになるのか先が見えてこない。今、日本を挙げて、節電に心がけ夏場のエネルギー需要に対応しようとしている。この国難に日本中が立ち向かっている。

あの日(3/11)を境にして、何もかもが変わってしまったという心境の人がかなりいる。想像を絶する津波に言葉を失い、この世の出来事かといまだ我が目をうたがう。被災地では、いまだ現実を受け入れず、子・孫をさがす姿にテレビのチャンネルを変える。

この「詩」は、震災後AC公共広告機構のCMで流された詩です。皆さん、聞き覚えがありますか！

「ころ」は

だれにも見えないけれど

「ころづかい」は見える

「思い」は

見えないけれど

「思いやり」は

だれにでも見える

この「詩」は、宮沢章二さんの詩です。心に沁み、心が温まり、人の優しさを感じる。宮沢章二さんは6年前の3月11日に亡くなりました。この大震災が3月11日です。何かの縁なのでしょう。被災地でボランティア活動している人は、まさに「詩」のとおり。感謝でいっぱい。私たち一人一人ができる事をするのが大切だ。そのことが日本を救う。

(ある会合で宮沢章二さんの詩を聞きました。本当に心温まりました。それにも増して先生は、国際情報高校の校歌の作詞者で平成4年に当地を訪れています。著書「行為の意味」を求める)

6月定例議会 ～ 一般質問で9人が震災関連を！

六月議会は、六月七日から十七日までの十一日間。
議会最終日に、笠原喜一郎議員、中沢俊一議員、岩野松議員に、在職10年以上の全国市議会議長の表彰伝達式が行われる。

三人とも、六日町時代からで、通算16年の長きにわたり、市政の発展に貢献したものです。本当におめでとうございます。

● 議会初日

一般会計補正予算(基幹病院関係で二億四千万、個人住宅リフォーム三千五百万、図書館建設一千七百万、大原運動公園四千八百万)議論白熱で可決する。

● 一般質問

柏崎・刈羽原発から50キロ圏内に位置する当市の防災対応の見直し、自然再生エネルギー、節電対策で20人中9人が市長と相対す。

● 議会最終日

旧五十沢小学校跡地を日本電産コパル(株)に無償譲渡。

原子力発電所の安全対策強化を求める意見書全会一致で採択。

一般質問(6月16日)

●浦佐スキー場来季営業中止に思う！

昨年、スキー学校創立 50 周年記念パーティーを、11 月に東京で 12 月に地元で開催した。その挨拶で、牛木社長は「スキー学校 50 年の節目を、新たなスタートとしたい」浦佐スキー場開設の原点である「地域とともに歩む」そして、「地域に愛されるスキー場をめざす」と言ってシーズンが終わったばかりの 5 月 24 日、臨時株主総会で、来季営業中止を決断した。その胸中を思うとき、さぞかし無念であったと思う。

浦佐スキー場は昭和 33 年に開設し、スキー場の発案者は、当時町医者であった駒形医院の先生だ。「冬になると、なぜか患者が増える。診察してもどこも異常はない。冬になると患者が増えるのは、何故だろう」と・・・！たどり着いた答えが「半年間雪に埋もれ、働く場が無い。そして、男手は出稼ぎに行き、家に一家の大黒柱がいないせいだ。」「医者では治せない病気で、このままでは浦佐は死んでしまう」と、山の開発・スキー場を、地区民に訴えた。

この小さな浦佐スキー場に、2 年後の昭和 35 年にスキー学校が開校した。浦佐スキー学校は、スキー道場と呼ばれスキーヤーであれば、一度は浦佐で滑り、スキー学校に入らないとスキーヤーと言われないとまで言われた。昭和 40 年 50 年 60 年代と日本を代表するデモンストレーターが育ち、スキー技術は常に日本をリードしてきた。

当時誰が今日のスキー産業の衰退を予想したのでしょうか。来季営業中止の、その決断に理解をしているつもりですが、本当に地元や行政で、何とかできなかったのかと思うとくやしくてならない。

南魚沼市の基幹産業である冬季観光・スキーを衰退させてはいけません。スキー場への入込客の増大に必要なことは、PR も大切で重要ですが、より大切なことは、地元からの利用が増えることではないか。そのためには、小学生、中学生、いや保育園・幼稚園のころから板をはき、スキー場に足を運ばさせることですが市長の所見を伺う。

<市長答弁>

浦佐スキー場が地域に及ぼした功績には感謝
スキー人口が減少している中で、子どもの時からスキー場に行くことは大切なので、保護者の方がスキー場に行かれるような環境を整備する。

スキーは復活できると強い信念を持っている。

●魚沼基幹病院メテカルタウン構想について

魚沼基幹病院も今年度着工し、27 年開院に向けて動き出した。基幹病院の開院に関連し、多くの企業や関連産業が進出をもくろんでおり、確実に定住人口は増加する。発展はするが、地域や土地が虫食い状態になり、無秩序なまちづくりにならないよう 3 点を伺う。

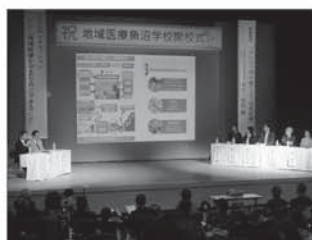
・市長も県知事も基幹病院を作るだけではなく、人が集まるまちづくりも行うと言っておるが、具体的な日程は。・二つ目は、昭和 46 年 10 月に上越新幹線浦佐駅停車決定を受け、大和の人口が 3 万人になるという昭和 48 年に計画された「都市計画事業」の見直しの進捗状況と見直し時期はいつか。・三つ目は、南魚沼市は、平成 19 年度に県内で 5 番目に、景観行政団体になった。市民参加による「景観計画の策定」の時期はいつですか。

<市長答弁>

基幹病院周辺の土地利用計画は今年度中に、都市計画事業の見直しや、景観計画策定もそれに合わせて進めている。

トピックス

4/8 新生五十沢小開校式



4/16 地域医療魚沼学校開校式

4/20 八海山春の大祭



5/12.13 地方自治学会

6月議会概要(7日~17日)

★ 市長所信表明



- 住民健診については、対象者を19歳から16歳に引き下げ、また40歳到達者へがん検診の無料クーポン券を配布するなど受診率の向上を目指す。
- 大和病院では、内科医師1名、外科医師1名を採用。
- 大原運動公園、図書館整備について、市民が集い利用しやすい施設をめざし実施設計をおこなう。
- 地球温暖化対策では、南魚沼市の実行計画「概要版」(新エネ・省エネ施設マップ)を全戸配布した。
- 17号六日町バイパスに2億円、17号浦佐バイパスに4億円、八箇道路に25億円の国予算が配分される。(震災により予算の5%は執行保留。)
- 5月11日に「がんばれ東日本・がんばろう南魚沼市」をスローガンに「自粛しない南魚沼市」を宣言する。

<第49号議案「平成23年度南魚沼市一般会計補正予算」に修正動議が提出される>

大原運動公園整備事業費「測量設計等委託料」48百万円を削除する内容で、提出者は寺口友彦議員、賛成者は牛木芳雄議員、笠原喜一郎議員、岡村雅夫議員。

提出者の説明があり、提出の理由に ①財政の見通しが甘い。②2万人の署名の重さを考えていない。③議会軽視である。④スポーツ基本計画策定中であり順序が逆である。⑤議会で議員同士の議論がされていない。

今回は、提出者と市長にも質問ができるので、多くの議員が提出者と市長に質問する。

- ・特に議員からは③と⑤で、提出者に厳しい意見が集中し、時々提出者言葉が詰まる。
- ・①の件は改めて市長に問いただしたり、提出者にも迫る。

私は原案賛成、修正動議反対の立場で、提出者と市長に質問する。

質問終了後討論に入る。原案賛成で、井上議員・今井議員・佐藤議員・牧野議員が登壇し意見を述べる。原案反対・修正動議賛成で、岡村議員・中沢(俊)議員・岩野議員・笠原議員が意見を述べる。

採決の結果、修正動議は賛成少数(6人)で否決。原案は賛成多数(19人)で可決する。

私たちが選挙で選任され2年、この野球場問題は、第一のハードルをクリアする。

2万人の反対署名された皆さんが、心配されている「財政が悪い」「財政が悪化する」「他のサービスに振りむけるべきだ」「子・孫の世代に借金を残さない」について、議会では2年間、県内や他県の施設をも調査し、議論に議論を重ね今回の採決となった。

これですべて終わったわけではなく、これからがスタートだ。今一度、財政の見直しを行うし、実施設計ができた段階で、利便性やコストの件で新たな課題が生じれば、議会として取り上げる。

これから、同じように「図書館の建設」問題があり、野球場と同じように市民目線を大事にし、将来に禍根を残さないように、しっかりとした良いものを建設しなければならない。図書館は、駅前のララ内に建設予定であるから、市の中心市街地の活性化の議論も並行して行う事が大切だ。

5/21 自民党県定期大会



5/24 国際情報高校田植え

6/4 新町地藏清水竣工式



6/19 びしゃもん市祭り

かわら版(ミニ情報)

★浦佐まちづくりシンポジウム開催(6月26日)

浦佐駅東側は、国際大学等の文教施設に加え、平成27年に魚沼基幹病院が開院し、ここ数年の間に天王町地区は大きく発展・変貌する。浦佐駅西側は、ある意味で時代の流れから取り残された空間だ。かつて三国街道の宿場町として、毘沙門様を中心に賑わいをみせた。



井口市長からご挨拶いただく

新幹線浦佐駅を境に様相(発展と衰退)が違う

地域が連帯し、「自然と歴史・文化を守り・育て・活かしたまちづくり」をしようと、ここ数年住民が中心となる取り組みが始まった。

この輪をさらに広げるために「毘沙門様千年のまちづくり」シンポジウムを計画した。

●「地域個性を活かし続けるまちづくり」と題して講演。

浦佐の町を、日本一の和ローソク工房とローソク会館の建設。食は餅。3月3日の大祭にこだわるのが大切。



グリーンシグマ相楽氏

●「基幹病院の土地利用」と題して、新潟市民病院、長岡日赤病院周辺のまちづくり(土地利用・景観・交通)に係わった経験を通し講話



南魚沼地域振興局 大花計画調整課長

ただ。

●先進事例の報告



八海山麓水無溪谷研究会の井口優さん。里山の大切を!

塩沢「牧之通り」について熱く語る! 貝瀬久さん。



●「基幹病院メデカルタウン」構想について、大和庁舎山田センター長が、今年の秋ごろまでには具体的な計画をと講話。

●一年間の成果を報告する

- ① 毘沙門通り懇談会 羽賀不二夫さん
- ② 川原町まちづくり協議会 小島康義さん
- ③ 天王町まちづくり協議会 小沢清・佐藤剛さん

★第2回 南魚沼グルメマラソン(6月12日)



絶好のマラソン日和、9:30 ハーフマラソンが、9:45 1/8 マラソンが号砲一発、八色の森公園を2,500人の選手がスタートする。八海山を仰ぎ、魚の川の清流と500人のボランティアに励まされ、選手はさっそうと走る。



走った後は地元のグルメを堪能する。テントの前には美味しいものを求めて選手の列が並ぶ。満腹になったら、ステージのミニライブを楽しむ。まさに「お祭り」だ!!!

松任谷正隆さんによる「春よ来い」プロジェクトに参加する

編集後記

●六月十九日、びしゃもん市「小さなお祭り」に、孫が三人遊びにくる。「孫は目に入れても痛くない」と言う諺がだんだんわかるような気がしてきた。

●雨にぬれ、咲いている「紫陽花」が曇天に映え、あでやかにさえている。この梅雨の季節も好きだ。そして、雨の中朝ジョッキングするのも又、楽しい。

●二十八日民主党議員総会での菅首相の発言にはあ然とする。新松本復興大臣は、民主党、自民党、公明党に翻弄されることなく、被災地のために仕事をすると記者会見で話す。政治家はこうでなければならぬ!!!